

■ 現場レポート NO. 5 ■

地域を学ぶ、地域で学ぶ

～長和町立和田中学校アントレ学習発表会～

平成 24 年 1 月 19 日

長野県の東に位置する長和町立和田中学校。ここでは地域の教育資源を活用したユニークな活動が行われています。そのひとつが「アントレ学習」。先日、このアントレ学習の発表会にお邪魔しました。

■ アントレ学習って？

3年前から始まったというこのアントレ学習ですが、「アントレ」とは「アントレプレナーシップ」＝「起業家精神」のこと。和田（旧和田村）の特産・特性を活かした商品開発の試みを通して、地域で育ち、地域に生き、地域を活かす人材を育てようとするキャリア教育のひとつです。

■ 地域と連携し、ふるさとを知る

アントレ学習に使える時間は1年間で20時間。しかし、この20時間でアントレ学習が完成するわけではなく、アントレ学習を支える、ふるさとを知るための活動が4月から行われています。たとえば地域の歴史を知る「和田宿学習」や自然を知る「里山学習」。歴史情緒豊かな宿場町の建築物や史跡の数々を学んだり、近くの森や沢、そこに住む生物について理解を深めます。

こういった地域を知る活動に大きな役割を果たしているのが、実際に和田で暮らす地域の方々です。和田には「和田学校支援地域本部」という組織があり、学校教育に力を添えています。和田宿学習や里山学習、そしてアントレ学習も、この学校支援地域本部の力を借りて行われています。この組織の力に支えられ、生徒たちには実際に和田で起業した方に話を聞く機会や、職業体験学習を行う機会がありました。ほかにも文化祭の際に「おやき」や「ねりきり」といった食文化を体験したり、琴や茶道に挑戦したり、和田での学習には地域の方々度々登場します。

さらに、アントレ学習には長野大学や長和町役場も協力しています。特に長野大学からは2人の先生が支援アドバイザーにつき、商品開発やプレゼンテーションの授業を行ったり、ポスター作りへの協力を行いました。



■ インフォメーションではなくコミュニケーションを

今年度のアントレ学習のテーマは「未来の和田をプレゼンする！！～和田に人を集めるにはどうしたらよいか！？～」。プレゼンテーションするのはイベント、まち作り、ツアー、商品開発、PR、公園作りの6企画。どれも和田の特徴や魅力を商品化し、人を集めるために、企画立案からポスター作り、発表方法の検討まで生徒たちが自分たちで考えたものです。

会場に着いてまず驚いたのが観客の多さです。発表は平日の午後6時から行われた上、当日はあいにくの雪。にもか

かわらず、多くの保護者や活動に協力した住民の皆さんがこの日の発表を心待ちに会場に足を運んでいま

た。

15分間のプレゼンテーションが始まると、趣向を凝らした発表に観客は釘付け。笑いや感嘆の声に終始会場は賑やかでした。会場からプレゼンテーションに対する意見や質問が多く寄せられたことも新鮮でした。しかもその内容もプレゼンテーションを評価するものからその現実性を問うものまで様々。その受け答えから生徒が良く下調べをしてある様子が伝わってきました。



今回の発表会に先立ち長野大学の先生が生徒たちに伝えたことの中に「プレゼンテーションは相手に伝わって初めて意義がある。」というものがあつたそうです。インフォメーションとして一方的に伝えるだけではなく、相手に伝わりコミュニケーションになって初めてプレゼンテーションに価値が出る、ということです。

この日、会場から多くの質問や意見が出たり、生徒自身から「楽しかった」という感想があがったことは、まさに観客にプレゼンテーションが伝わりコミュニケーションが

生まれたことの証ではないでしょうか。

地域に支えられ、コミュニケーションをとりながら日々活動をしていく。生徒と地域の方の熱気に溢れた発表会に参加して、その力強さを感じたひとときになりました。

(文責 教育総務課 伊藤仁美)